

# 情報交換会をオンライン開催

## 繊維リサイクル技術研究会

### 「アップサイクル」などテーマに

（一社）日本繊維機械学会・繊維リサイクル技術研究会（委員長・木村照夫京都工芸繊維大学名誉教授）は1月26日、第142回情報交換会「新年、色々学びましょう」国連グループ・コンパクト、アップサイクル、サーキュラーデザイン」をオンライン開催し

た。アパレル企業担当者や故繊維業者、リサイクル関連事業者、学識者など約100人が参加し、近年注目を集めるテーマ3題の講演に対して活発な質疑応答が行われた。

まず、「アパレル産業をサーキュラーエコノミーへ移行させるためのサーキュラーデザ

インとは」をテーマに、武蔵野美術大学大学院修士2年でFABRIC TOKYO（東京・渋谷）の峯村昇吾氏が登壇。「設計と製造」「ビジネスモデル」「回収・カスケード利用」といった各段階における環境負荷等を図解するなど、研究の一端を披露した。

におもちゃで遊ぶことで、子供の自立や道員の使い方、考える習慣、社会性などが身に付くといわれている。

同社は、過剰在庫のアルコールジェルを申し込み者全員にプレゼ

は続くが、供給が落ち着き、アルコールジェル在庫が過剰になり有り余った。昨年はコロナ禍でも、都市部で倉庫の坪単価が高騰した。余剰在庫に苦しむ事業者は多かった。

JECT（助け合いゼロプロジェクト）は、余剰アパレルの廃棄される衣料品や在庫製品を買い取りして、寄付を募る仕組みを構築した。他にも、障害者就労

続いて、NPO法人日本エコロジーアップサイクル協会の理事長、木村俊平氏がアップサイクルについて解説。その歴史を振り返りつつ、「ごみになっ

てしまうものを価値のある物に変えること」と定義し、ワークショップなど同協会の活動状況を紹介した。最後に、（一社）グループ・コンパクト・ネットワーク・ジャパンのプロジェクト総括マネージャーの庄司良子氏が講演。国連と民間企業・団体が連携し、健全なグループ社会を築くことを目指す、世界最大のサステナビリティイニシアチブである国連グループ・コンパクト（UNGCC）の取り組みについて説明を行った。